

安来今昔 『和鋼博物館総合案内から』 Vol.1

(株)峰岸商会 代表取締役 峰岸 一郎

来年当社は創業50年という節目に当たります。

来年に向けて当社が創業より扱っております安来ハガネについての説明をしたいと思えます。

私が平成元年に御世話になった日立金属(株)安来工場に隣接する『和鋼博物館』の説明文章を元にお伝えしたいと思っております。

幼少期初めて安来市に父と行き、鋼というものを本格的知ったのが「和鋼記念館」で鋼を創り出す事に使命を燃やす日立安来男児の姿が鮮明に写真に映し出されていたのが印象的でありました。その資料を基に少しだけ・・・

山陰の代表的民謡安来節にも「安来千軒 名の出たところ」と唱われているように、安来は江戸時代、周辺山間部や伯耆(鳥取県西部)のたたらで生産された和鋼の積み出し港として、繁栄をきわめてた歴史を持っている。江戸時代中頃、日本海において物資輸送の花形である北前船の往来が活発になると、多くの和鉄が中海を経て日本海をとおり、各地の金物生産地へ輸送された。北前船は各寄港地において様々な物資の購入と販売を繰り返しながら航行して利潤をあげる、動くスーパーマーケットともいえるものであった。そのような販売形態のなかで、当地産の和鉄は品質にも定評があり、時代に即応した商品でもあった。それとともに、重量物を船底に積み込むことにより、船の揺れを防止するのにも大いに役立ったとされる。 続く・・・



鋤 (ケラ)



和鋼博物館